



これからの幼児教育のかたち

子どもたちと

ともに学び

成長する



平成17年3月完成の新園舎で取り組む豊かな心と身体づくり

平成17年4月から、尚絅短期大学附属幼稚園は、同じ構内に完成した新園舎へ移転しました。そこでは、開園以来培ってきた自然に囲ま



木の香りがあふれる室内

れた環境を再現する一方で、運動場の新設など施設の充実、四季の花や果樹に親しむ園づくりなどに取り組む予定です。

これは、当園が大きな教育目標として掲げてきた。遊びを通して、豊かな心と身体を育むための環境づくりをさらに押し進める形で実現したものだ。

子どもが発達に応じた遊びをしたり、遊びから対人関係を学ぶ機会を持つことは非常に重要だといわれています。しかし現代の子どもは成長段階に関わらず、TVやゲームのように動きが制限された遊びに偏ってしまう傾向にあります。そのような状況をふまえ、これまで幼稚園では敷地に雑木林や草原など自然を残し、木登りや泥んこ遊び、クワガタ採りなど、子どもが思いきり遊べる環境づくりを行ってきました。

自然環境の中で遊ばせることは、けがなどのリスクを伴うものではありませんが、大切なのはリスクを避けて遊びの環境を限定することでなく、安心して遊べる状況を整える配慮と努力をすることなのです。豊かな自然の中での遊びや体験学習は、豊かな心と身体を養い、自

然環境の中で遊ばせることは、けがなどのリスクを伴うものではありませんが、大切なのはリスクを避けて遊びの環境を限定することでなく、安心して遊べる状況を整える配慮と努力をすることなのです。豊かな自然の中での遊びや体験学習は、豊かな心と身体を養い、自

ら遊びをつくり出す創造力を育てていきます。新園舎はそのためのフイールドとして、さらに大きな期待が寄せられています。

基本的な生活習慣を身につけるのに最も適した就学前

もうひとつ、幼児教育を考える上で重要なのは、就学前が生活習慣を身につけるのに最も適した時期でもあるという点です。自分で自分のことができることは自立への第一歩です。挨拶や規則正しい食事、排便など、当たり前のことが当たり前にできる習慣を身につけることが大切ですので、定期的に家庭内の生活習慣調査を行い、指導の参考にしています。

当園は尚絅短期大学の実習施設としての役割も兼ねており、教諭はすべて尚絅の卒業生。今後は短期大学との連携をより密にし、幼児教育研究の場、理論実践の場として機能させていくことを目標にしています。幼児教育の役割とは子どもを到達度で比較することではなく、長い人生の基礎を築き、道しるべを示すこと。その極めて重要な役割を、社会、家庭、教育機関がそれぞれに再

確認する時期にきているのではないのでしょうか。
現代の子どもを取り巻く環境を理解し新しい子育てのあり方を考える

「最近の子どもたちは屋外で遊ぶ機会が少ない。皆さんは、その理由をこ



存じでしょうか。最大の要因は、子どもが安心して遊べる場所がなくなってきたことにあります。1955年と1990年を比較した場合、安心して遊ぶことができる場所は全国平均で95%減少しました。一方、熊本市教育委員会が子どもを対象に行った調査では、子どもは「お金がかららず、自由に遊べる場」で、「高い所に登ったり、叱られない」といった要望を持っていきます。遊びたいのに遊べないと悲鳴を上げている子どもに対し、大人側が応えていないというのが現状です。要求を満たさないという現在の育ちの環境は、子ども自身の将来に大きな影響を与えます。その現状の理解と打破にむけて行動を起こすところ、幼児教育の場で求められているといえるでしょう。その端は、核家族化にあるのでしょうか。

存じでしょうか。最大の要因は、子どもが安心して遊べる場所がなくなってきたことにあります。1955年と1990年を比較した場合、安心して遊ぶことができる場所は全国平均で95%減少しました。一方、熊本市教育委員会が子どもを対象に行った調査では、子どもは「お金がかららず、自由に遊べる場」で、「高い所に登ったり、叱られない」といった要望を持っていきます。遊びたいのに遊べないと悲鳴を上げている子どもに対し、大人側が応えていないというのが現状です。要求を満たさないという現在の育ちの環境は、子ども自身の将来に大きな影響を与えます。その現状の理解と打破にむけて行動を起こすところ、幼児教育の場で求められているといえるでしょう。その端は、核家族化にあるのでしょうか。



実は、1920年代と比べても、全世界における核家族が占める比率は大幅には増加していません。問題はそれぞれの家族が地域社会との繋がりを断ち、孤立を深めた点にあるのです。それまでごく自然に行われてきた子育ては地域全体で行うという意識が薄れ、また、高度成長期に進んだ男女の役割分担化が、周囲に頼る人のいない若い母親を生みました。

そこで子育てを支援するという目的で生まれたのが、サークル活動です。大切なのは、大人側が、子どものために活動に参加するということ。認識をしっかりと持つことにありますが、実際は、母親が主体性を持たず、自分自身のためにお客さんの立場で参加するという依存型が多いのが実状です。活動は、自分と他人の子どもを区別することなく、子どものために行うという理念を持つことが必要でしょう。

子どもを取り巻く環境は激変し



ています。テレビや携帯電話、パソコンなどのメディア環境が、発達の過程を変え、生の人間同士の「ミニニケーション」を希薄にし、結果として幼児教育の現場では、個別対応が必要とされる子どもが増えています。だからこそ、私たちは、まずは子どもを見つめ、子どもたちの子育てを行わなければなりません。そして、その理念を理解し、行動できる教育者の養成が、当学園に求められている社会的役割だといえます。